

津港杉森ガ杉ノ末ノ誤デアツタシテモ昔其處ニ自生ノひうがみづゑガアツタコトヲ斷定スル譯ニハユカナイシ、現在モ亦無イノガ本當ラシイ、ソレデ今ノトコロ吉永氏ガ始メテ見付ケラレタ大江山ノ北麓ガコノ植物ノ自生地デアルコトニナル、私ハ今マデ自生地ノ判ラナカッタ栽培植物ガ一ツ減ツタノヲ喜ブモノデアル此ノひうがみづゑヲ一番最初ニ植物學的ニ研究シ之レニ新學名ヲ命ジ圖說シタノハツツカリニ氏デソレガシボルト、ツツカリニ合著ノ *Flora Japonica* に出テ居ルカラ參考ノ爲メ此ニ其圖ヲ縮寫シテ掲ゲタ(前頁)、ソレガ今カラ九十三年程前ノ事デアル

(附記) 私ノ知人デ峰山ニキル人ノ談デハ、ソノ人ノ生地ナル與謝半島ノ岩瀧町男山ノ山ノ中ニモソノヤウナ木ガアツテヨク薪トシテ刈ツテ來タモノダト云フコトダカラ或ハ與謝半島ノ方面ヤ又西ノ方但馬ノ方面ニモ亦無イトモ限ギラナイヤウデアル

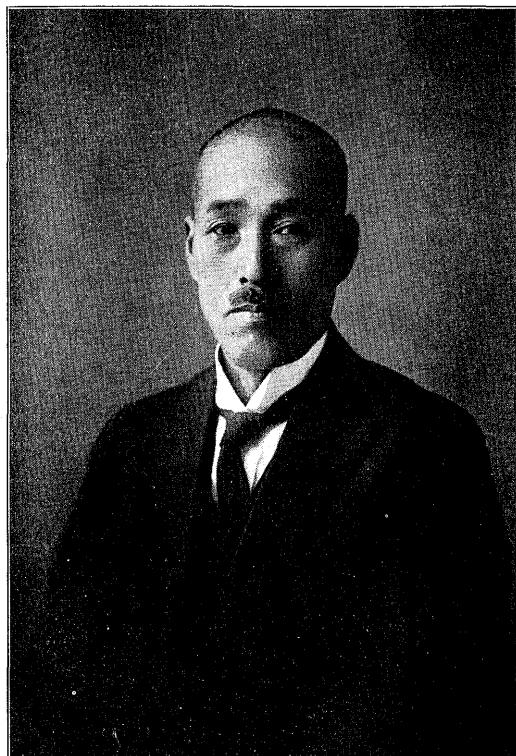
【牧野日フ】 ひうがみづゑノ和名ニ就テハ本誌第三卷第十一號(278)頁ニ愚見ヲ陳バテ置イタ

○珍ヘシク海南ノ土佐下見ルたゞせんданトハゼなせんдан

土佐高知 吉 永 虎 馬

本邦ニ産スルせんだん屬 (*Melia*) ハ屬スル植物ニシテ現時知ラシタルモノハ四種アリ、即せんだん (*Melia Azedarach* L. var. *japonica* MAKINO.) ハベズナせんだん (M. *Azedarach* L. var. *japonica* MAKINO f. *albiflora* MAKINO.) たゞせんだん (M. *Azedarach* L. var. *japonica* MAKINO subvar. *Toosendan* MAKINO.) ハズナせんだん (M. *Azedarach* L. var. *japonica* MAKINO subvar. *semperflorens* MAKINO.) 是ハナリ、而シテせんだんハ最モ普通ノ品種ニシテ本州中部以南ニ於テハ諸處リヤハ見ハシ得ギキモ他ハ[[種ハ何ノモ稀品ニ屬セリ、就中たうせんだんハ初々々 *SIEBOLD ET ZUCCARINI'S Flora Japonicae Familiae Naturaes*, I, p. 159. (1843)]]於テ

珍ラシク海南ノ土佐デ見ルたうせんだんトしろばなせんだん



吉虎馬君

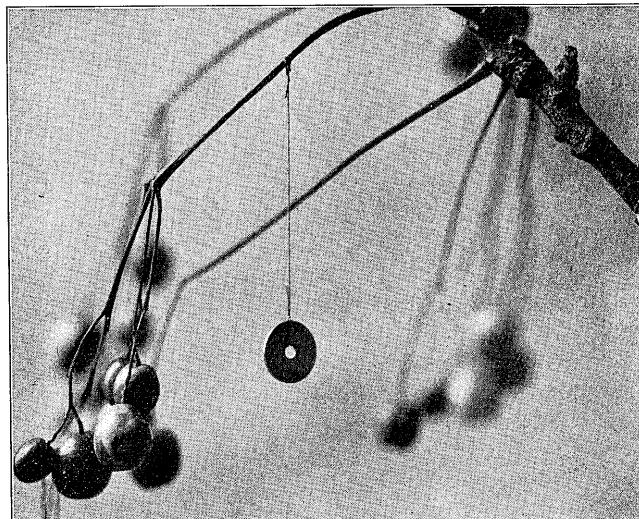
(昭和二年二月一日、土佐高知市、櫻鷗寫眞館撮影)

ミ帝國大學及新宿御苑、臺灣總督府等ヨリ標本、果實等送附ノ依頼ヲ受テ之ヲ送リ又縣外ヨリ植物學者ノ來ルアレバ本縣植物界ノ誇トシテ必ズ此處ニ導キ實見ニ供スルヲ常トシタリキ、先年牧野氏歸縣ノ際ニハ、當時帝國大學ニ於テ氏ニ依リテ著述セラレツ、アリシ大日本植物志ニ之ヲ圖載シテ發表センガ爲メ他日晚春開花ノ節ヲ期シ再び歸縣セントスルノ希望アルコトヲモ語ラレタルコトアリキ、前述セル如ク本株ハ此ノ稀有品種ノ當時本邦内ニ於テ知ラレタル唯一ノモノナルヲ以テ予ハ實ニ名木トシテ保護すべき充分ナル價值アルヲ信ジ屢々

學界ニ紹介セラレテ以來 MIQUEL, DE CANDOLLE 其他諸學者ノ著書ニ引用記載セラル、ニ拘ラズ其ノ產地ノ明確ニ知ラル、モノ殆ンド之レナク從來唯僅ニ此ノ海南高知縣ノ地ニ於テ其ノ一株ヲ認ムルノミナリキ、即長岡郡五臺山村吸江（高知ノツバキ）青柳橋畔ニ於テ普通種ノせんだんト相並ビテ栽エラレタルモノ是レナリキ

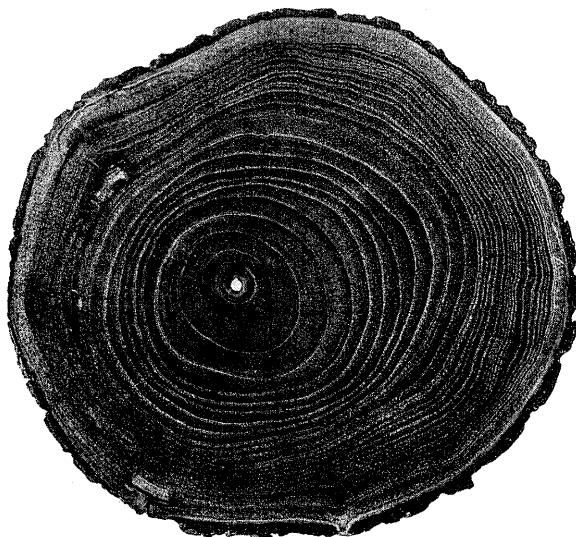
抑此本邦產植物中稀有ノ品種タル本株ガ我土佐ニ現存スルコトヲ初メテ認メタルハ實ニ我恩師牧野富太郎氏ニシテ爾來學界ニ於ケル奇品トシテ斯學者間ニ知ラル、ニ至レリ、サレバ予ハ屢々

珍ラシク海南ノ土佐デ見ルたうせんだんトしろばなせんだん



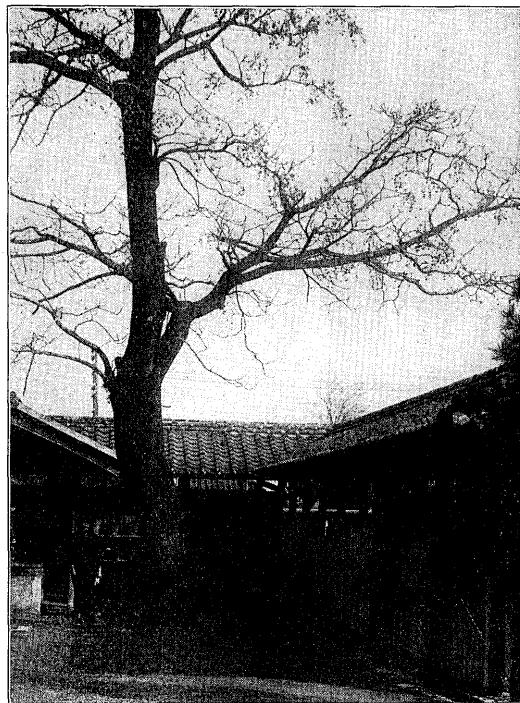
たうせんだん (*Melia Azedarach* L. var. *japonica* MAK. subvar. *Toosendan* MAK.) の果實、果實ト其大サヲ比較スル
爲メ吊リ下ゲタルハ十錢白銅貨
(大正十五年十二月、土佐高知吸江青柳湖畔ニテ撮影、縮小)

道路改修等ノ爲ニ濫ニ之ヲ損害セザル様當局者ニ警告ヲ與ヘタルコトアリキ爾後漸次一部人士ノ注意ヲ惹キ年々之ガ果實ヲ採リテ播種シタルモノ尠カラズ特ニ縣廳土木課ニ於テハ盛ニ其ノ苗木ヲ仕立テ學校庭、道路側等



たうせんだん (*Melia Azedarach* L. var. *japonica* MAK. subvar. *Toosendan* MAK.) の幹ノ横断面
(始メテ土佐高知吸江青柳湖畔ニテ見出セラレタ株ノ者ニテ
大正三年九月三十日暴風ノ爲メ倒レタル幹、縮寫)

珍ラシク海南ノ土佐デ見ルたうせんだんトしろばなせんだん



たうせんだん (*Melia Azedarach* L. var. *japonica*
MAK. subvar. *Toosendan* MAK.) の大木

(昭和二年一月、土佐高知市道手筋、高知市第三尋常小学校内庭)

ニ栽植シタルヲ以テ各地ニ擴マリ既ニ長
ジテ冬季ニ至レバ纏々トシテ夥シキ果實
ヲ樹梢ニ着ルヲ見ルニ至レリ、然ルニ此
ノ貴重スペキ母樹ハ年ト共ニ漸ク衰兆ヲ
呈シ居タルニ不幸ニシテ去ル大正三年九
月三十日暴風ノ爲メニ空シク其ノ莖幹ヲ
中斷セラレテ再ビ其ノ樹姿ヲ見ルヲ得ザ
ルニ至リシモ爾後其ノ殘存セル舊株ヨリ
發芽シタル數枝今ハ已ニ果實ヲ結ブニ至
レリ、此ノ母樹切損ノ當時高知新聞紙上
ニ「名木折る」ナル記事顯ハレ其ノ最後
ヲ惜マレタルニ數日後同紙「葉書便り」
中ニ（四十男）ナル匿名ヲ以テたうせん
だんノ大木ガ尙市内追手筋第三尋常小學
果シテ之ガ該種ナルカラ質問セラレタリ、就キテ之ヲ觀ルニ其ノ果實並ニ葉形等能ク本種ノ特徵ニ一致シテ疑
フベキ餘地ナカリシト雖モ尙其ノ生地ニ到リテ親シク之ヲ見ルニ及ンデ果シテ本株亦たうせんだんナルコトヲ
確認スルヲ得タリ、而シテ本株ハ頗ル老大セルモノ、如ク幹圍地上約五尺ノ高サニテ六尺一寸、三尺ノ高サニ
テ六尺、根廻リ六尺八寸、彼ノ青柳橋畔ノモノ、如キハ其ノ一枝ノ大サニ過ギズ樹勢稍衰ヘタルガ如キ感アリ

ト雖尙年年盛ニ繁茂シ居レリ、寫真ハ最近結實セル狀態ヲ撮リタルモノナリ

抑ニ彼ノ青柳橋畔ニ在リシ一株ガ何時如何ニシテ我縣ニ來リシカハ全ク不明ニ屬シ今尙疑問ノ裡ニアリ、而シテ其ノ仆レシ樹幹ニヨリテ年輪ヲ數ヘ約三十餘年ヲ經過セルヲ知レリ、即チ該橋ガ新ニ架設セラレタル頃何處ヨリカ之ガ幼苗ヲ普通種ト共ニ移植シタルモノガ幸ニ生存セシモノナラン、然ルニ追手筋ニ在ル大樹ノ生地ハ舊藩政時代山内家御側醫師タリシ村田玄明氏ノ邸ニ屬セシヲ以テ或ハ同氏一族ノ人ニヨリテ往時長崎ト交通アリシ際同方面面ヨリ藥用植物(川棟子ト稱スルハ即チ是レナリ)トシテ又ハ唐木ノ一ト稱セラレテ我土佐ニ移サレタルニハアラザルカ現ニ同氏ト同僚ナリシ諸氏ノ市内舊邸内ニ往々九州地方ヨリ傳來シタル藥用植物ノ近時迄生存シタルモノニアリシトイフ、若シ果シテ九州ヨリ之ガ果實若クハ苗木ヲ齋サレタルモノガ幸ニ生存シテ残レリトスレバ或ハ青柳橋畔ノモノ、母樹ハ本株ニハアラザリシカ

MIQUEL 及 DE CANDOLLE 氏等ノ本邦產地ヲ掲グルモノ九州長崎及豊前(Fuzen)並ニ箱根ニシテ SIEBOLD 氏ハ其ノ東部支那ヨリ移入セラレタルカヲ信ジ又 MIQUEL 氏ハ豊前ガ其ノ自生他ナランカヲ疑ヘリ而シテ箱根ハ何カノ誤ナルベシ、DIETS 氏ノ中央支那ノ植物志ニハ明ニ本種ガ支那地方ニ產スルコトヲ記サレ居レリ
原來せんなんハ其ノ生長極メテ速カニシテ數年ヲ經過スレバ已ニ相當ノ大ニ達ス、而シテ萌發後四五年間ハ特ニ其ノ長大トナルコト著シたうせんなんニ於ケル亦同一ナリ、予ガ去ル明治四十一年春種子ヨリ萌發シタルモノニシテ一度其ノ原生地ヨリ他ニ移植シタルモノニ就キテ其ノ幹圍ヲ計リシニ左ノ如シ

根廻リ四尺六寸、幹圍二尺ノ高テニ三尺五寸、目通リニ二尺九寸

たうせんなんヲゼンダント分ツ特徵ノ一トシテ其ノ葉ノ全邊ニシテ鋸齒ヲ有セザルコトヲ擧グ然レドモ之ハ其ノ成長シタル樹ニ着キタル老成葉ノ場合ニ限レリ而シテ其ノ幼齡特ニ萌發後少時ヲ經タルモノ、葉ニハせんなんノ如ク同ジク鋸齒ヲ有スルヲ以テ單ニ此ノ點ヲ以テシテハ其兩者ヲ別チ能ハザルコトアリ

珍ラシク海南ノ土佐デ見ルたうせんだんトしろばなせんだん

(表 甲)

計	9	8	7	6	5	ノ縦溝 数
						果實 数
118	2	8	41	60	7	

(表 乙)

計	8	7	6	5	ノ縦溝 数
					果實 数
57	2	24	29	2	

(表 丙)

計	6	5	4	3	ノ縦溝 数
					果實 数
100	2	69	28	1	

たうせんだんノ核ハ六乃至八室ヲ有スル爲其ノ外面ニ同數ノ縦溝ヲ有スルコトハ能ク原記載ニ合シせんだんノ五縦溝ノ普通ナルトハ異レリ今左ニ調査シタルモノ、數ヲ舉ゲン
甲表ハ五臺山產母樹ノ種子ヨリ萌發シタル樹ニ生ジタル果實ニシテ、乙表ハ五臺山母樹ノ果實ナリ、又丙表ハ普通ノせんだんニ就キテ調べタルモノナリ

尙たうせんだんトせんだんトノ果實

ノ大サヲ比較調査シタルモノヲ表示

スレバ下ノ如シ（本調査ハ果實ノ既ニ熟シテ稍乾燥シタルモノニ就キテ行ヒタルヲ以テ實際ヨリハ少シク縮小セルモノナリ）

甲表ハ追手筋第三尋常小學校庭ノ樹、乙表ハ高知第一高等女學校庭ノ樹ヨリ得タル果實ニヨリタルモノニシテ後者ハ五臺山村產ノ種子ヨリ萌發シタルモノナリ、而シテ丙表ハ高知第一高等女學校庭ニアル普通ノせんだんノ果實ヲ計リタルナリ

五臺山並ニ第三尋常小學校庭ノたうせんだんノ果實ハ著シク大ナレドモ其ノ種子ヲ播キテ得タル樹ニ結實セルモノハ何レモ其ノ大サ彼レニ及バズシテ小ナリ

珍ラシク海南ノ土佐デ見ルたうせんだんトしろばなせんだん

(表 甲) 径 縦

計	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	1ミリ トル	果實 ノ數
100	1	1	12	13	36	11	15	6	2	3		

(表 甲) 径 橫

計	23	22	21	20	19	18	17	16	15	1ミリ トル	果實 ノ數
100	2	2	7	28	20	25	12	4			

(表 乙) 径 縦

計	23	22	21	20	19	18	17	16	15	1ミリ トル	果實 ノ數
100	4	6	15	18	15	20	10	5	7		

(表 乙) 径 橫

計	20	19	18	17	16	15	14	13	12	1ミリ トル	果實 ノ數
100	1	2	11	25	23	26	7	4	1		

(表 丙) 径 縦

計	18	17	16	15	14	13	12	11	1ミリ トル	果實 ノ數
100	3	6	21	36	23	7	3	1		

(表丙) 横徑

計	15	14	13	12	11	10	9	ミリ メトル	果實ノ數
100	2	16	44	31	4	2	1		

珍ラシク海南ノ土佐ヲ見ルたうせんだんトしるばなせんだん

しるばなせんだん (*Melia Azedarach L. var. japonica MAKINO f. albiflora MAKINO.*)
ハ初メ牧野氏ニヨリテ本縣高岡郡佐川町猿丸坂頭上舊、東光寺ノ在リシ地ニ於テ發見セラレタル一品種ニシテ其ノ雪白花ヲ以テ著シ、而シテ他形態ノ如キハ普通種ト殆ンド異ルコトナシ

本種ハ其ノ數又極メテ少クシテ今知ラレタルモノ他ニ吾川郡神谷村尋常高等小學校庭内ニ數株、高岡郡日下村笠木越縣道傍ニ一株アリ、而シテ佐川町ノモノハ老樹ナレドモ大ナラズ神谷村ノモノ最モ大ニシテ且樹勢旺ナリ、嘗テ同校ニ奉職セラレタル現本縣立中学校教諭永野七郎氏ノ予ノ請ヲ容レテ計ラレタル幹圍左ノ如シ（大正十五年五月二十一日附同氏ノ來信ニヨル）

白花のもの學校に七本學校前店屋てんやに一本、その他にも（調べたのではないのですが）神谷三瀬あたりにあり又あつたそうです

◎大目通リ七尺 根元一〇、五尺

割合古いやうで可成の老人などにさして見ても何時植ゑたかわからぬやうです七十程の人にさしても若い時からあつたといふから五十年もへてゐないでせうか

A 目通(二、七尺)
A 根元(三、三尺) B (五、六尺)
B (四、四尺) C (三、〇尺)
C (三、七尺) D (三、一尺)
D (四、一尺) E (四、二尺)
E (四、一尺) 道路傍にあるもの (二、九尺)
A から E までは六尺以上も埋つてゐるわけですがそれで根元の却つて小さいものもありますこれは日露戰爭の紀念に植ゑたといふから約二十年をへたわけです大きなもの、種子らしいのです